

## 〈経緯〉

西部管内の素材生産量は年々増加しているが、これに伴い労働災害発生件数も増加傾向。特に、伐倒作業中の労働災害は死亡事故に繋がる恐れもある。

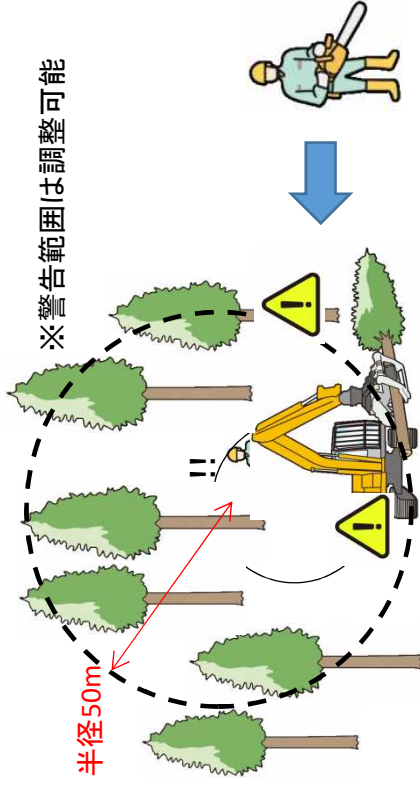
- 安全パトロールや啓発活動だけでは、事故を抑制することが困難であることから、IoTを活用し、林業作業者同士の近接を防ぐための機器開発に着手することとなった。

## 〈R4年度成果〉

死亡事故ゼロに向け、作業員間や重機の意図しない接近を通知する“林業近接検知・通報システム”を開発・製品化。管内4事業体が7セットを導入。

- ・危険につながる近接等を、専用デバイスで作業者へ通知  
→ 作業者間、作業者と重機、作業者事故発生など

警告範囲：作業者中心に半径50m  
(平均的な樹高25mの2倍)



## 〈主な機能〉

- 1) 意図しない接近を知らせる。
  - ・作業者と作業者の距離、作業者と重機の距離を測定して通知
- 2) SOSを発信
  - ・万一の事故発生時、他の作業者に通知
  - 3) 作業者の位置情報を可視化
    - ・専用スマホに作業者・重機、SOS発信者の位置情報を表示

## 〈R5年度の取組み〉

R4年度導入事業体に使用してもらいながら、事業体の意見を集約。更なる改良を進めていく。